

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200544		
法人名	株式会社宇宙SORA		
事業所名	グループホーム ハーモニーみずほ		
所在地	静岡県静岡市駿河区みずほ2-5-8		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和4年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294200544-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294200544-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4 年 2 月 22 日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念にあるように共に生活する一つの「家族」として入居者様に対し「尊敬・感謝」の気持ちを忘れずに一人ひとりと向き合い、常に入居者様の立場に立ったサービスを提供出来るように心掛けています。勤務している職員同士も同じく「尊敬・感謝」の気持ちを忘れず生き生きと楽しくやりがいを持って働ける環境作りを目指しています。そうする事で入居者様、ご家族、職員が一つの家族として一緒に笑うことが出来るホームになっていけるとします。畑で野菜を栽培したり花壇に花を植えたり一緒に会話したりゲームをしたり歌を歌ったりと入居者様と職員と一緒に楽しんで生活出来る空間になるように日々取り組んでいます。地域との交流などは今は殆どありませんが、コロナウイルス感染が落ち着いた時には地域の行事に参加し入居者の皆さんが地域社会との関わりを通じてより生き生きと生活出来るようにして行きたいと思っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から入った交通量の少ない所に位置し、敷地が広く、昨年から花壇の整備を進め、ジャガイモを作り収穫した。今後は更に整備を進める予定で、敷地内での日光浴も十分に行える環境が整っている。職員は利用者のケアについて試行錯誤を繰り返し、様々な試みの中で良ければ継続し、改善点は話し合い、次のアイデアを考え変更、実践している。地域との連携はコロナ禍で進んでいないが以前からウエスや寝具を届けてもらったり、新聞やチラシを新聞販売店からもらう等の関係性が続いている。ホーム長は職員の声を聞き、職員の働きやすい環境を作り、声かけをまめにし利用者様が落ち着いて穏やかに過ごせるようにしている。居間には季節を感じる利用者や職員が作った作品が飾られ、利用者が編んだ帽子を何人かの利用者がかぶっている。テーブルで卓球をしたり部屋でくつろいだり思い思いに過ごしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を事務所に掲示し、毎朝の申し送り時に職員全員で唱和し、基本理念の周知に努めています。	毎朝、法人とホーム理念を申し送り時に職員で唱和している。ホームミーティングを活用して理念の実践につなげられるよう話し合い、ホーム長が基本理念をより理解できるように説明を行い職員の理解と共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に職員、入居者が一緒に参加し交流を深めていました。行事が行われる情報も地域住民の方から教えて頂いています。現在はその交流も行事もなく自粛中。	地区の行事は自治会長から情報を得る事ができ、地域の防災訓練や清掃に利用者職員が参加していたが、現在は開催が自粛中である。ウエスや寝具の差し入れは継続しており、新聞やチラシは近所の新聞販売店より頂くなど、限られた中でも関係の継続を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム通信を回覧板に入れ地域住民の方にホームでの生活の様子を知って頂けるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回書面会議として開催しています。対面での話し合いが出来ていないため、必要な情報のみになってしまっていますが、ホームの状況、地域の状況など意見交換を行っている。	コロナ以前は、自治会長、民生委員、地域包括支援センターの職員、家族が参加していたが、今年度は書面開催で行われた。事故報告やヒヤリハットなど活動報告のみに留まらず、毎回テーマを決めた意見書には、意見とともにテーマについても返信をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の書面会議で質問事項に対して非常に丁寧に質問に答えて頂いたり、相談にものってくれています。福祉事務所も入居者の事で連携を図っています。介護相談員の派遣は訪問中止となっている。	地域包括支援センターには運営推進会議の議事録を送り、意見書で意見を伺っている。日頃から連絡をとり相談できる関係を整えており支援課とは、生活保護者について相談をしている。現在、中止となっている介護相談員の訪問の要望を提出している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を宣言している。リスクマネジメント委員会が3ヶ月に1回会議を開催し職員に身体拘束についての意見交換や知識習得の場を設けている。	マニュアル、指針は整備され、委員会は3か月に1回、メンバーが集まって話し合いを持ち、議事録の作成や職員への周知も行っている。研修は委員会のメンバーがテーマを決め、開催している。	

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームミーティングで虐待について話し合う機会を設けている。普段の業務内でも職員同士言葉遣いなど注意し合える環境作りを目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している入居者様がいるので担当の方と連絡を取り合っています。制度などホームミーティングなどで話し合う機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談時にご家族と話をして不安や疑問について理解して頂けるよう丁寧に説明するよう心掛けています。契約時の読み合わせ時にもその都度、不安・疑問に対して説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の体調に変化があった場合に随時家族に連絡をし状況を伝えている。面会時にご家族から何か意見、要望等があれば運営に反映出来るように取り組んでいる。	面会はオミクロン株の拡大で中止する事となったが、それ以前にはパーテーション越しに予約制で行っていた。家族にはホーム長が電話をかけ意見を伺い、担当職員が利用者のお便りに近況を書いて送っている。職員は利用者全員の情報を申し送りノート等で把握、共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員が環境整備、感染症対策、防災、リスクマネジメント委員会に所属施設運営の一環として責任感を持ち業務に取り組んでいる。ホームミーティングで意見交換する場を設けている。管理者は職員に積極的に声掛けをし何か不安などがあればその都度相談にのるようにしている。	ホーム会議には勤務者以外の職員も全員参加し、活発な意見交換が行われている。職員からの提案にはすぐに取り組み、実行している。ホーム長やエリア担当者は職員に積極的に声掛けをし疑問点や課題について相談できるように関係性を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を含め仕事と私生活が両立出来るよう、働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量を把握し、その場面に最適なケアが出来るよう必要に応じて指導、助言を行っている。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の小規模ホームの連絡会議が開催されるのですが現在は出来ていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の基本情報をもとに、ご本人の意向も確認しながら安心して生活が出来るよう支援に努めている。その後職員が声掛けや気付いたことなど職員同士情報を共有し連携を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面談時にご家族の不安や意見を聞きケアに活かしている。その後も不安、疑問などがあれば連絡を頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時にご本人、家族と話しニーズを聞き職員に情報を提供し共有している。他のサービスが必要な場合、家族と相談し検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人が出来る、出来ないを見極めながら、出来る事はお願いし、出来ない事は一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を面会時やホーム通信、ブログでお知らせし、身体的、精神的に変化があった場合に電話連絡をし情報を共有出来るようご家族とコミュニケーションを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通常であればご家族、友人、知人も気軽に訪ねて来て面会が可能であるが現在は自粛中。	新聞を定期購読している利用者や編み物の好きな利用者には家族が毛糸を届けてくれ、他の利用者の帽子を編んでプレゼントしている。お菓子が好きな利用者には家族が小分けをしたおやつを定期的に届けてくれる。	

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の関係を把握し穏やかに生活が出来るよう食卓やソファの席を考えたりしている。イベントやレクリエーションなどを通じ支え合うように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関わりで得た関係性を大切にし契約終了してからも必要な時連絡を頂いている。相互に相談出来る関係性を継続出来るように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員と入居者様が会話する機会を多く作り、一人ひとりの思いを受け止められるように努めている。うまく伝えられない時は表情や行動から思いを理解するよう努めている。	職員は日頃から声かけをまめにするように心がけている。失語症の利用者には声かけをして返答の表情を見て気持ちをくみ取るよう寄り添った支援に努めている。一人ひとりの情報は申し送りノートを利用して職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人からの生活歴、能力など聞き取りその情報を職員間で共有している。それらの情報を元にその人らしく生活出来るようにケアしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での話し合いや個人記録、健康チェック表を活用して現状の把握に努めている。申し送りやホームミーティングを利用しケアの見直しをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を確認して往診時に主治医の意見も聞いている。ミーティング時に職員が意見を出し合い計画書を作成している。	カンファレンスは担当職員が中心になり毎月人数を決めて全員行えるようにしている。医師や看護師の意見も参考にして、家族からの意見も聞き介護計画書を作成している。	短期目標が詳細な項目別になっていないのでモニタリングが難しいという問題点がある。記入方法を再考してモニタリングをし、更新時の参考になるようにまた、日々の業務に活かせるよう期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や排泄記録、健康チェック表を活用し情報の共有に努めている。毎朝の申し送り時日々の変化の情報を共有し介護計画書の見直しに活かしている。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活過程で新たなニーズ(状態の変化等)に対してご家族に相談しながら福祉用具やマッサージ、外部医院の受診等の支援に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのお店に行ったり地域の行事に参加していましたが今はコロナの影響で自粛中。ホームで使用するウエスに使う不要な衣類や使わなくなった寝具など地域住民の方が提供してくれたりします。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望であれば従来の病院で受診する事は可能です。提携医の往診は月2回の往診と緊急時の往診が可能。24時間体制で電話でも対応してくれています。随時対応し医療が受けられる安心出来る支援体制が整っている。	入居後説明をし、現在は全利用者が協力医に月に2回往診をしてもらっている。24時間365日対応可で他科の初期対応や入退院の連携も良好である。歯科医とも連携がとれ、必要に応じて連絡をすると往診してくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のケアの様子を職場内看護師に伝え健康チェック、爪切り等の看護処置を受けている。訪問看護師に相談した場合は医療と直結しているため往診や薬、点滴治療等の処置が受けられ適切な支援が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時施設での状況がわかるよう介護サマリーなどで詳しい情報を相談員、担当看護師に伝えるようにしている。面会や電話などで相談員、担当看護師などと退院後の受け入れ体制を相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の対応に関する指針」を読み合わせ説明を行っている。今後状態の悪化がみられた場合、医師、家族、施設で話し合い、施設で出来る看取りの方向性も含めて三者で連携していく旨を伝えている。	入居時に重度化と終末期の事業所の対応について説明をし、同意書をとっている。状態に変化が見られた場合、医師、家族、職員で方針を話し合い対応している。事業所では看取りの担当者ホーム長医療関係者と話し合っで対応を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については職員が対応できるよう説明している。応急手当についても研修を行い対応できるようにしている。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と防災委員会主導で安全に避難出来る方法など定期的に知識習得の為の研修を行っている。消火器の場所の確認、点検、防災用品のチェック、避難通路の確保、整理整頓を行っている。	防災、リスクマネジメント委員会が中心になって、テーマを決め防災計画を立てて避難訓練を行っている。行政から11月に総合訓練を行い報告書を提出するように指導されている。備蓄は法人がリストで管理している。地域との連携は協力体制を築けるよう要望を出している。	災害時の長期停電の場合に、必要な物や行動を想定して備えを検討できるよう期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあった声掛けを心掛けている。出来ないことや失敗があっても自尊心を傷つけないよう対応している。常に受容・傾聴・共感に心掛けるよう努めている。	法人では新人研修でマナー、スピーチロック等の研修を行い、その後も継続して施設内研修を行っている。職員は利用者寄り添ったおちついた声かけが出来るよう心掛け、対応が上手くできていない時は職員同士で注意しあえる関係を築くようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己の希望を言いやすい雰囲気作りや声掛けに努め、言葉に出来ない入居者様には表情などで察するように努めている。ご本人が納得出来るよう話をさせて頂くなど、自己決定出来る支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の性格、生活リズムを理解しそれぞれのペースに合わせた声掛けをし、その人らしい過ごし方を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3ヶ月に1回訪問理容により散髪をしている。衣類は自分の好みの服を選ぶことが出来るよう自立支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本日のメニューを伝え食事の話題で話したり、食事の盛り付け、野菜の皮むきなど一緒に食事作りをしている。食後の片付けも職員と一緒に進めたりする。	食材を業者に配達してもらい職員が調理をしている。皮むきや盛り付け、食器洗いなど利用者それぞれのできる範囲で手伝ってもらっている。畑で採れたジャガイモを利用したり、誕生日のケーキ作り、季節感のある手作りおやつ等を取り入れ食事の楽しみを増やしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常食やミキサー、刻み食、お粥など入居者様の状態に合わせた形態で提供している。嚥下状態に合わせてスプーンの形状を変えるなどして安全に摂取出来るように努めている。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自分で出来る方は声掛けで促し、出来ない方は介助にて歯ブラシ、スポンジブラシを使用し行っている。歯の痛み、義歯の調整等は歯科往診で診てもらう環境が整っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し定期的トイレ誘導、パッド交換を行っている。介助が必要な方は羞恥心に配慮しながら洗浄し清潔が保てるよう支援している。	排泄チェック表で利用者のパターンを把握し習慣やしぐさを見て、できるだけトイレでの排泄を支援している。夜間でもトイレでの排泄が多く、現在はポータブルトイレの利用はない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量に限りがある方は多くいるため服薬による排便コントロールをしている方が多い。排泄チェック表を確認しながら主治医に相談し薬の調整を行っている。毎日の体操、歩行運動で体を動かし水分摂取量にも注意しながら便秘解消に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入居者全員が平等に入浴出来るよう入浴チェック表があるが、ご本人のペース、体調に考慮して入浴を行っている。拒否がある方には声掛けに注意し、スムーズに入浴が出来た場合の情報共有をしている。	3日に1度、主に午後入浴をしている。拒否がある利用者には声掛けを工夫し、職員、時間を変える等行い、上手く対応できた時には申し送りノートで情報を共有している。風呂好きな利用者にはできるだけ希望に沿えるよう回数を増やして入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースで過ごしており、居室への出入りも自由に行っている。居室で臥床される方もいますが適時声掛けを行い、夜間の睡眠に支障が無いように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセット時のチェック、服薬時の声掛けによる服薬ミスの予防、服薬後の袋のチェックとミスが起こらないようにチェック体制を強化している。薬の変更があった場合は管理日誌の特記に記入し職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が出来る事、得意な事を声掛けにて行っている。嗜好品も可能な限り対応している。イベントも季節を感じて貰えるようなイベントを実施するようにしている。		



静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防のため、ご家族との外出や地域行事の参加などは自粛中。外部との接触がない施設周辺の散歩や季節を感じて貰えるようなドライブ企画を実施し楽しんで頂けるよう支援している。	コロナ禍で地域行事の中止や面会制限のある中、施設の敷地内での日光浴や人通りの少ない近所の散歩で気分転換を図り、時には車中ドライブを行っている。昨年は畑でジャガイモを育て収穫できたので、今年も野菜や花を育てる計画をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時よりお小遣い金はホームで預かり管理している。お小遣い帳に記入し毎月ご家族様にお小遣い帳のコピーを送っている。お金の所持は無くとも安心して過ごして頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から「電話を掛けたい」と希望があった場合ご家族様に連絡し状況を確認、考慮し取次を行う。頻繁に希望される場合は安心して落ち着いて過ごして頂けるよう声掛けをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除機、モップ掛けを行い清潔保持をしている。手すりやドアノブ、椅子、テーブルなどを消毒作業し室内の換気も定期的に行っている。壁面には入居者様が制作した作品や季節を感じて貰えるような作品を入居者様と一緒に制作し飾るようにしている。	居間、食堂、廊下の壁には季節感があるものが飾られ、利用者様のお雛様も飾られていた。窓が多く日当たりも良く、居間と食堂の好きな所でくつろぐことができる。感染対策にも力を入れ、定期的な消毒・換気に努め手すりやドアノブの消毒もまめに行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が自由にテレビを観たり談笑出来るソファを設置している。その他入居者様皆で楽しめるようトランプ、カルタ、ゲームなどを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居前の生活の中で普段使い慣れた馴染みの家具、寝具、写真、仏壇など持って来て頂いている。今までの生活感を大切にしながら過ごせる空間が出来るよう配慮している。	備え付けのタンスは移動が自由にできるようになっているので、ベッドの位置を考慮して配置している。作品や造花が飾られた部屋や自室でテレビを見たり、編み物をしたりして寛げる部屋など個人に合わせて配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に十分に配慮し声掛け見守りをしながらその人が出来る能力に応じて支援を行っている。介助が必要な方には過度な介護にならないよう気を付けて安全面に配慮した自立支援に努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200544		
法人名	株式会社宇宙SORA		
事業所名	グループホーム ハーモニーみずほ		
所在地	静岡県静岡市駿河区みずほ2-5-8		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	令和4年4月11日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2294200544-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2294200544-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4 年 2 月 22 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念にあるように共に生活する一つの「家族」として入居者様に対し「尊敬・感謝」の気持ちを忘れず一人ひとりと向き合い、常に入居者様の立場に立ったサービスを提供出来るように心掛けています。勤務している職員同士も同じく「尊敬・感謝」の気持ちを忘れず生き生きと楽しくやりがいを持って働ける環境作りを目指しています。そうする事で入居者様、ご家族、職員が一つの家族として一緒に笑うことが出来るホームになっていけると思います。畑で野菜を栽培したり花壇に花を植えたり一緒に会話したりゲームをしたり歌を歌ったりと入居者様と職員と一緒に楽しんで生活出来る空間になるように日々取り組んでいます。地域との交流などは今は殆どありませんが、コロナウイルス感染が落ち着いた時には地域の行事に参加し入居者の皆さんが地域社会との関わりを通じてより生き生きと生活出来るようにしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を事務所に掲示し、毎朝の申し送り時に職員全員で唱和し、基本理念の周知に努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に職員、入居者が一緒に参加し交流を深めていました。行事が行われる情報も地域住民の方から教えて頂いています。現在はその交流も行事もなく自粛中。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム通信を回覧板に入れ地域住民の方にホームでの生活の様子を知って頂けるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回書面会議として開催しています。対面での話し合いが出来ていないため、必要な情報のみになってしまっていますが、ホームの状況、地域の状況など意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の書面会議で質問事項に対して非常に丁寧に質問に答えて頂いたり、相談にもものってくれています。福祉事務所も入居者の事で連携を図っています。介護相談員の派遣は訪問中止となっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を宣言している。リスクマネジメント委員会が3ヶ月に1回会議を開催し職員に身体拘束についての意見交換や知識習得の場を設けている。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームミーティングで虐待について話し合う機会を設けている。普段の業務内でも職員同士言葉遣いなど注意し合える環境作りを目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している入居者様がいるので担当の方と連絡を取り合っています。制度などホームミーティングなどで話し合う機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談時にご家族と話をして不安や疑問について理解して頂けるよう丁寧に説明するよう心掛けています。契約時の読み合わせ時にもその都度、不安・疑問に対して説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の体調に変化があった場合に随時家族に連絡をし状況を伝えている。面会時にご家族から何か意見、要望等があれば運営に反映出来るように取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員が環境整備、感染症対策、防災、リスクマネジメント委員会に所属し施設運営の一環として責任感を持ち業務に取り組んでいる。ホームミーティングで意見交換する場を設けている。管理者は職員に積極的に声掛けをし何か不安などがあればその都度相談にのるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を含め仕事と私生活が両立出来るよう、働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量を把握し、その場面に最適なケアが出来るよう必要に応じて指導、助言を行っている。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の小規模ホームの連絡会議が開催されるのですが現在は出来ていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の基本情報をもとに、ご本人の意向も確認しながら安心して生活が出来るよう支援に努めている。その後職員が声掛けや気付いたことなど職員同士情報を共有し連携を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面談時にご家族の不安や意見を聞きケアに活かしている。その後も不安、疑問などがあれば連絡を頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時にご本人、家族と話しニーズを聞き職員に情報を提供し共有している。他のサービスが必要な場合、家族と相談し検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人が出来る、出来ないを見極めながら、出来る事はお願いし、出来ない事は一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を面会時やホーム通信、ブログでお知らせし、身体的、精神的に変化があった場合に電話連絡をし情報を共有出来るようご家族とコミュニケーションを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通常であればご家族、友人、知人も気軽に訪ねて来て面会が可能であるが現在は自粛中。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の関係を把握し穏やかに生活が出来るよう食卓やソファの席を考えたりしている。イベントやレクリエーションなどを通じ支え合うように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関わりで得た関係性を大切にし契約終了してからも必要な時連絡を頂いている。相互に相談出来る関係性を継続出来るように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員と入居者様が会話する機会を多く作り、一人ひとりの思いを受け止められるように努めている。うまく伝えられない時は表情や行動から思いを理解するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人からの生活歴、能力など聞き取りその情報を職員間で共有している。それらの情報を元にその人らしく生活出来るようにケアしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での話し合いや個人記録、健康チェック表を活用して現状の把握に努めている。申し送りやホームミーティングを利用しケアの見直しをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を確認して往診時に主治医の意見も聞いている。ミーティング時に職員が意見を出し合い計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や排泄記録、健康チェック表を活用し情報の共有に努めている。毎朝の申し送り時日々の変化の情報を共有し介護計画書の見直しに活かしている。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活過程で新たなニーズ(状態の変化等)に対してご家族に相談しながら福祉用具やマッサージ、外部医院の受診等の支援に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのお店に行ったり地域の行事に参加していましたが今はコロナの影響で自粛中。ホームで使用するウエスに使う不要な衣類や使わなくなった寝具など地域住民の方が提供してくれたりします。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望であれば従来の病院で受診する事は可能です。提携医の往診は月2回の往診と緊急時の往診が可能。24時間体制で電話でも対応してくれています。随時対応し医療が受けられる安心出来る支援体制が整っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のケアの様子を職場内看護師に伝え健康チェック、爪切り等の看護処置を受けている。訪問看護師に相談した場合は医療と直結しているため往診や薬、点滴治療等の処置が受けられ適切な支援が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時施設での状況がわかるよう介護サマリーなどで詳しい情報を相談員、担当看護師に伝えるようにしている。面会や電話などで相談員、担当看護師などと退院後の受け入れ体制を相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の対応に関する指針」を読み合わせ説明を行っている。今後状態の悪化がみられた場合、医師、家族、施設で話し合い、施設で出来る看取りの方向性も含めて三者で連携していく旨を伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については職員が対応できるよう説明している。応急手当についても研修を行い対応できるようにしている。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と防災委員会主導で安全に避難出来る方法など定期的に知識習得の為の研修を行っている。消火器の場所の確認、点検、防災用品のチェック、避難通路の確保、整理整頓を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあった声掛けを心掛けている。出来ないことや失敗があっても自尊心を傷付けられないよう対応している。常に受容・傾聴・共感に心掛けるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己の希望を言いやすい雰囲気作りや声掛けに努め、言葉に出来ない入居者様には表情などで察するように努めている。ご本人が納得出来るよう話をさせて頂くなど、自己決定出来る支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の性格、生活リズムを理解しそれぞれのペースに合わせた声掛けをし、その人らしい過ごし方を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3ヶ月に1回訪問理容により散髪をしている。衣類は自分の好みの服を選ぶことが出来るよう自立支援している。メイクなど女性らしさを失わないよう声掛け支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本日のメニューを伝え食事の話題で話をしたり、食事の盛り付け、食事の味付け、野菜の皮むきなど一緒に食事作りをしている。食後の食器洗い、お盆拭きを率先して行って頂けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常食やミキサー、刻み食、お粥など入居者様の状態に合わせた形態で提供している。嚥下状態に合わせてスプーンの形状を変えるなどして安全に摂取出来るように努めている。		



静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自分で出来る方は声掛けで促し、出来ない方は介助にて歯ブラシ、スポンジブラシを使用し行っている。歯の痛み、義歯の調整等は歯科往診で診てもら環境が整っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し定期的にトイレ誘導、パッド交換を行っている。介助が必要な方は羞恥心に配慮しながら洗浄し清潔が保てるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量に限りがある方は多くいるため服薬による排便コントロールをしている方が多い。排泄チェック表を確認しながら主治医に相談し薬の調整を行っている。毎日の体操、歩行運動で体を動かし水分摂取量にも注意しながら便秘解消に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入居者全員が平等に入浴出来るよう入浴チェック表があるが、ご本人のペース、体調に考慮して入浴を行っている。拒否がある方には声掛けに注意し、スムーズに入浴が出来た場合の情報共有をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースで過ごしており、居室への出入りも自由に行っている。居室で臥床される方もいますが適時声掛けを行い、夜間の睡眠に支障が無いように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセット時のチェック、服薬時の声掛けによる服薬ミスの予防、服薬後の袋のチェックとミスが起こらないようにチェック体制を強化している。薬の変更があった場合は管理日誌の特記に記入し職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が出来る事、得意な事を声掛けにて行っている。嗜好品も可能な限り対応している。イベントも季節を感じて貰えるようなイベントを実施するようにしている。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防のため、ご家族との外出や地域行事の参加などは自粛中。外部との接触がない施設周辺の散歩や季節を感じて貰えるようなドライブ企画を実行し楽しんで頂けるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時よりお小遣い金はホームで預かり管理している。お小遣い帳に記入し毎月ご家族様にお小遣い帳のコピーを送っている。お金の所持は無くとも安心して過ごして頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から「電話を掛けたい」と希望があった場合ご家族様に連絡し状況を確認、考慮し取次を行う。頻繁に希望される場合は安心して落ち着いて過ごして頂けるよう声掛けをしている。ご自身の携帯電話を所持されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除機、モップ掛けを行い清潔保持をしている。手すりやドアノブ、椅子、テーブルなどを消毒作業し室内の換気も定期的に行っている。壁面には入居者様が制作した作品や季節を感じて貰えるような作品を入居者様と一緒に制作し飾るようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が自由にテレビを観たり談笑出来るソファを設置している。その他入居者様皆で楽しめるようトランプ、カルタ、ゲームなどを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居前の生活の中で普段使い慣れた馴染みの家具、寝具、写真、仏壇など持ってきて頂いている。今までの生活感を大切に落ち着いて過ごせる空間が出来るよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に十分に配慮し声掛け見守りをしながらその人が出来る能力に応じて支援を行っている。介助が必要な方には過度な介護にならないよう気を付けて安全面に配慮した自立支援に努めている。		